

五山僧侶の漢籍読書傾向について —明代の読書傾向と比較して—
The Reading of Chinese Books of Gozan Buddhist Priest in Japan
—Comparing with Intelligentsia in Ming China—

学籍番号：201221618

氏名：梁 雨薇

YUWEI LIANG

中国の文化は古くから日本に大きな影響を与えてきた。その影響は二つの手段によって日本に伝わった。その一つは人間であり、もう一つは書籍である。現在、両国の文化交流に関する研究対象の大部分は文化を伝えた人物に集中し、書籍に関する研究は多くない。特に、室町時代において、漢文学を支えた五山僧侶の漢籍受容に関する研究は少ない。五山僧侶は仏教者と漢文学者の二つの顔を持っており、中国との関係が深い。そのため、漢文学が盛んであった時代の五山僧侶の読書傾向を研究する必要がある。

そこで本研究では、五山文化の中でも漢文学が特に繁栄した時期の四つの日記について分析する。具体的には、五山僧侶の日記から、彼らが読んでいた漢籍を抽出し、漢籍読書傾向を明らかにする。また、当時の明代の人々の読書傾向と比較し、五山僧侶と明代の人々の読書の特徴について検討する。

まず、第一章で歴代の漢籍の伝来と僧侶と漢籍の関係について紹介した。次に、第二章では、明代の五山文化と五山僧侶の状況についてまとめ、なぜ五山僧侶が漢籍を多く読んでいたのかその理由について論じた。また、四つの日記とその作者についてまとめ、その上で、日記の分析を行った。分析はまず四つの日記から漢籍の抽出を行い、それらを外典と内典とに分けた。外典については中国の四部分類法によって分類し、最も多く読まれた漢籍の種類について検討するという方法で、五山僧侶の漢籍読書状況を明らかにした。第三章では、明代の文化と人々の読書環境、読書の目的について論じた。明代の読書状況を明らかにするため、読書指南書から読書状況に関する内容を抽出し、明代の一般人の読書状況を調べた。また、同じ禅僧としての明代の僧侶の随筆（日記）についても、五山僧侶と同様の方法を用い、彼らの読書状況を明らかにした。第四章では、五山僧侶と明代の人々・僧侶の読書状況を比較し、五山僧侶の漢籍読書傾向を明らかにした。

分析の結果、五山僧侶は、様々な部類の漢籍を大量に読んでいることが分かった。仏書以外に儒書、史書、文集、さらに老子と荘子の書物も読んでいた。さらに、明代の僧侶よりも五山僧侶の方が僧史・僧伝を重んじており、『伝僧録』や『神僧伝』などを多く読んでいるという読書傾向が明らかとなった。

研究指導教員：松本浩一

副研究指導教員：綿抜豊昭